



No. 146 2022. 4

(株) よかネット

NETWORK

香陵校区まちづくり計画

～特定まちづくりルールに則った分譲マンションが完成…………… 2

「個人化」社会における「田舎暮らし」：ライフシフト、
多様性、再帰性との関連…………… 7

表紙解説…………… 12

見・聞・食

まちの公園を活用して、地域に開くことを志向する保育園の取り組みと、
使用している制度についての紹介…………… 14

近況

八女市のアンテナショップ「八女本舗」に焼酎「環」を出品…………… 16

BOOKS

「オードリー・タン デジタルとAIの未来を語る」…………… 17

続 / 新ショッピングセンター論

「突破するSCビジネス」…………… 18

●福岡市の人口どうなってる？ ～進む都心への集中～

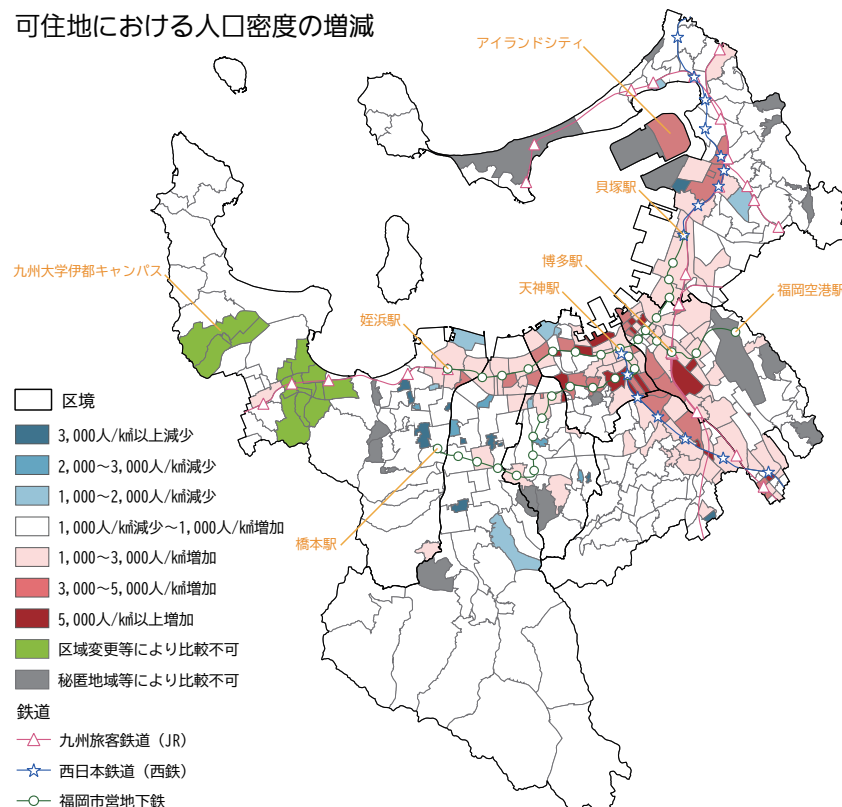
平成22年と令和2年国勢調査の結果をもとに、福岡市における10年間の人口の変化を見てみました。

市全体では10年間で148,649人の増加となっており、10%以上の伸びがみられます。また区別で見てもすべての区で人口増となっていますが、博多区・中央区と城南区・早良区とでは増減率で10ポイント以上の差が生じています。

さらに、国勢調査の小地域で比較すると、天神や博多駅周辺や、地下鉄空港線・貝塚線や西鉄大牟田線・JR鹿児島本線沿線の天神・博多地区への交通利便性がよい地域で人口の増加が顕著となっています。地下鉄七隈線沿線の人口増加は他路線に比べて駅を含む地域のみに限られています。令和5年3月には博多駅までの延伸区間が開業し博多へのアクセスが便利になることから、今後の人口増加の可能性も示唆されます。

一方で、人口が減少している地域は、古い公営の大型団地を含む地域で顕著となっており、高齢化、世帯の縮小の影響が大きいことがうかがえます。（詳細な算出条件や解説は12ページ）

可住地における人口密度の増減



地域	令和2年	平成22年	増減率
福岡市	322,503	292,199	10.4%
東区	20.0%	20.0%	+0.04
福岡市	252,034	212,527	18.6%
博多区	15.6%	14.5%	+1.11
福岡市	205,501	178,429	15.2%
中央区	12.7%	12.2%	+0.56
福岡市	265,583	247,096	7.5%
南区	16.5%	16.9%	-0.41
福岡市	212,579	193,280	10.0%
西区	13.2%	13.2%	-0.02
福岡市	132,864	128,659	3.3%
城南区	8.2%	8.8%	-0.55
福岡市	221,328	211,553	4.6%
早良区	13.7%	14.5%	-0.73
総計	1,612,392	1,463,743	10.2%
	100.0%	100.0%	-

※実数値の下段は各年の構成比
増減率の下段は構成比の増減

出典：国勢調査

香陵校区まちづくり計画

～特定まちづくりルールに則った分譲マンションが完成

山田 龍雄

香陵校区のまちづくり計画を策定してきた背景・経緯等は、本誌で過去2回報告している。

今回は、まちづくり計画に基づく初めての事前協議のこと、まちづくり計画に示されている特定まちづくりルールの効果と課題について報告する。

校区内にあった九州大学国際交流会館（留学生会館）と九大農学部が糸島キャンパスに移転することが平成30年（2018年）に決定し、留学生会館の土地建物が平成31年（2019年）3月の競争入札でJR（株）九州マンション事業部（以下「MJR」という）に売却された。その後、分譲マンション420戸を令和2年（2020年）1月から着工する計画が発表された。

MJR マンション開発は、香陵校区地域まちづくり計画策定後の事前協議第一号の案件で、ま

ちづくり協議会としても初めての経験なので、市の指導を受けながら、手探りで事前協議を行った。

私は校区住民であると同時に、まちづくり協議会事務局幹事として、当初のまちづくり計画策定時から係わり、事前協議では日程調整や進行等の役割を担った。

●香陵校区まちづくり計画とは

香陵校区は、元々福岡市東部の工業・流通団地で働く人たちの住宅の受け皿として計画的に開発された埋め立て地の一角にあり、規模としては約32haと福岡市内では下から3番目に小規模な校区である。

戸建て住宅はなく、すべて共同住宅（分譲住宅、公共賃貸住宅）、他に社宅、学生寮、病院、郵便局で構成されたコンパクトな街である。人口は5,159人、世帯数2,131世帯（令和3年12月末住民基本台帳）。人口密度は約161人／haと比較的密度が高い校区である。

都市高速道路の出入口（香椎浜IC）も近く、また、平成24年竣工した香椎副都心土地区画整理事業に伴い整備されたJR千早駅には10～15分でアクセスできることから、非常に利便性も高く、住宅地として人気の高いエリアである。

表 マンション開発計画の概要

敷地面積	19,742.05 m ²		
建築面積	4,150.00 m ²		
延床面積	38,000.00 m ²		
建ぺい率	21.02%	基準建ぺい率	60%
容積率	169.88%	基準容積率	169.93%
住戸数	420戸	駐車台数	455台



ネクサスワールドを上空からみる



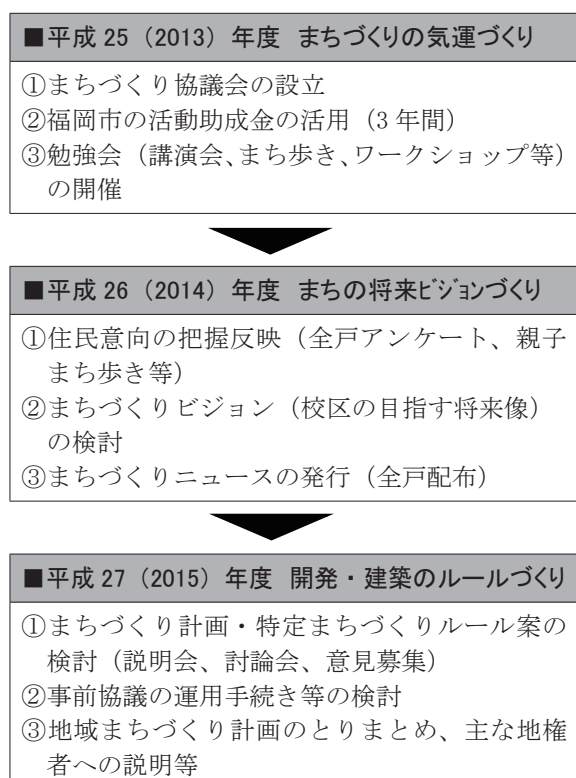
レム・コールハウス棟前の広い歩道状公開空地、市の歩道幅員は4m

当校区では、建築家磯崎新氏のコーディネートにより世界の建築家が設計した分譲マンション群であるネクサスワールドがシンボリックかつ特徴的なまち並み景観を形成している。ネクサスワールドでは、4～10 mセットバックした歩道状の公開空地、まちかど広場、沿道型の住棟配置、2列の並木道といった優れたまち並み景観をつくりだしている。

この校区内では、共同住宅が多く立地しており、平成12年（2000年）以降、土地利用の転換や改修工事が行われ、これからも転換が予想される土地がある。（元雇用促進事業団住宅地、西鉄バス香椎浜車庫等）

そこで、当校区の良好なまち並み、住環境の維持・向上を目指すためには、建築基準法だけでは達成できないと考え、福岡市が制定した福岡市地域まちづくり推進要綱に則って平成25（2013）年度から平成27（2015）年度の3ヵ年をかけて地域まちづくり計画を策定し、平成27年（2015年）4月に福岡市の地域まちづくり推進要綱の第2号（第1号は天神地区まちづくり計画）案件として登録された。

図 地域まちづくり計画策定のプロセス



本地域まちづくり計画の開発に適用される具体的な特定まちづくりルールは下記の3つで構成されている。本ルール策定時には、具体的な数値基準は定めず、すべて事前協議、話し合いで決めるという方向で考えていたが、先進地事例や専門家の方たちの意見等を吟味し、具体的な数値を明記していた方が事業者側にとっても事前に計画検討ができ、協議の円滑化も図れることから、数値基準を設けた。

①A：守るべき基準（数値基準）
A-1：道路幅員に応じて4 m又は1.5 mの歩道状公開空地の確保
A-2：壁面を4 m後退、周辺の建築物と壁面の位置を揃えること。
A-3：道路境界線から10 m以内は、建築物の高さを20 mまでとすること。
②B：守るべき基準（定性的基準）
B-1：景観を向上させるデザイン
B-2：適切な規模で住棟を分節、雁行
B-3：まちかど広場の確保
B-4：視線を遮る塀をつくらない
B-5：周辺を照らす照明灯の設置工夫
B-6：周辺の緑の連続性に調和した緑化
B-7：周辺と調和したデザイン
B-8：安全性と景観形成を確保した駐車場
B-9：住環境を阻害しない用途
B-10：1階に日常生活に便利な店舗等の設置
B-11：災害時の避難のため、すぐに高層階を開放できる計画
B-12：コミュニティ活動への参加
B-13：適切な維持管理
③C：計画に取りいれて欲しい基準
C-1：歩道に面した住戸や店舗等の確保
C-2：地域の人が集える場所の確保
C-3：一定戸数の賃貸住宅の確保
C-4：高齢者向けの福祉サービス施設や住まいの確保

●より良い住環境を目指し6回の事前協議

MJR マンション開発の事前協議は、香陵校区地域まちづくり計画に則って、令和元年（2019年）5月から8月初旬までに計6回、行った。その後、8月末には事前協議結果を踏まえた開発計画について住民説明会を実施した。

今、思い返すとMJR側との日程調整、議題に対する事前調整等、ボランティアでの活動としては厳しい面もあったが、6回の事前協議でお



“ぎんやま（子どもたちが名付ける）”のあるまちかど広場

互いの落としどころを見出し、調整の結果、適合判定とし、福岡市へ報告した。

当初、まちづくり協議会事務局メンバーでは九州大学建築学科の学生さんの協力を得て当跡地で、特定まちづくりルールに則った場合、跡地でどのような建て方が可能であるのかを検証してみた。

まちづくり協議会としては、周辺とのまち並みの連続性や周辺への圧迫感を和らげるためには、道路側に6～7階建てで分節したデザインの建物を並べ、その内側に20数階建ての高層住宅を建てる案も検討していた。

しかし、MJR側の計画は、構造的にRC造で建てられる高さ14階建て、L字型で囲み、内側はすべて平置き駐車場としていた。これは建築基準法を遵守したなかで事業性を考慮した場合、やむを得ない計画ともいえる。

その計画のなかで、特定まちづくりルールの数値基準、①道路境界線から10mセットバックした壁面線後退距離、②道路境界線から4m、1.5mのセットバックした歩道状公開空地の確保、③定性的な基準としてのまちかど広場、④1階に店舗の導入（コンビニ導入、TSUTAYAのライブラリーラウンジ）など、MJR側には、非常に協力をしていただいた。特に南西側のまち角広場には、かなり豊かに樹木を植えられ、住環境の向上に寄与している。今後、設立される管理組合が、この豊かな提供空間を継続して、適切に維持管理していくことを期待したい。

また、当初計画では小学校の正門近くに車の



14階建てL字型配置のMJRマンション（ザ・ガーデンズ香椎）

出入口があったため、安全性の問題から出入口を都市高速道路側へ移してもらった。さらにまちかど広場は、当初のルールではメイン通りに面したところのみでの確保となっていたが、緑道沿いにも整備していただき、結果的には敷地の4つの角地すべてにまちかど広場が確保された。

但し、残念なのは、L字型となっている西側の14階の住棟が約150mと長大であるため、景観的に圧迫感を与えることが想定された。これを緩和するため、特定まちづくりルールの「B-2：適切な規模での分節、雁行」に適合するようにお願いした。

しかし、福岡市建築指導課では「一の建築物」の考え方は外観上、機能上、構造上の一体性が条件となっており、各棟を極端に離すことができない。このマンションは確認申請上、「一の建築物」として申請しており、雁行した場合、「一の建築物」として認められない」と考えられた。協議会としては納得しがたかったが、諦めざるを得なかった。

●まちづくり計画があることの効果と課題

今回、香陵まちづくり協議会としては初めての事前協議を行い、本ルールがまち並みや景観面で一定の効果を果たすことができたと思っている。しかし、事前協議の運営面での課題や限界も感じている。

<効果>

- ・基本計画段階で協議できることで、安全面において地元の意向をくみ取ってもらい、早い



広いまちかど広場と TSUTAYA のライブラリーラウンジ、校区住民は会員（有料）になることでライブラリーラウンジの利用可能となる

段階で修正してもらえたこと。

- ・特定まちづくりのルールに則ってセットバックによる歩道状公開空地、まちかど広場など数値基準を遵守してもらい、ルールの効果が実証された。

<運用面の課題>

- ・想定していた手続きのフローでは、基本計画段階で第1回目の事前協議を行い、さらに詳細について基本設計レベルで2回目以降の協議を進めることとなっていたが、1回目の事前協議で、我々まちづくり協議会事務局とMJR側との基本計画、基本設計レベルの概念が違っていた。（MJR側の基本設計図は基本計画レベルの図面であった）そこで、まち並み景観に最も影響する外構設計は1/100～1/200レベルの図面を再提出してもらった。したがって、今回の事前協議の反省を踏まえ、まちづくり計画の手続きの一部変更を行い、基本計画と基本設計の図面の種類を明記した。

<要綱の限界と課題>

- ・まちづくり計画は、市の「地域まちづくり推進要綱」に基づく計画なので、強制力はなく、あくまでお願い事項となっている。現行の建築基準法が優先される。事業者側の事業性を考えれば、容積率限度まで床面積を積み上げるということに対しては、協議会側から注文を出すことはできない。一定の強制力を担保するためには、現在のところ地区計画や用途地域の変更あるいは条例化が望まれるが、こ



10 mの壁面線後退と4 m以上の歩道状公開空地を確保してもらいました。1階にコンビニが入ります

れらのルールで容積率を下げ、地価の低下を招くと所有者の同意を得ることは難しい。また、地区計画を制定する場合、分譲マンション所有者一人ひとりから同意を得ることは不可能である。現段階では、事業者側との粘り強い協議しかないのだが、事業者側としても事業スケジュールがあり、協議を長く続けるわけにはいかない。そこである程度は落としどころ、妥協点を見つけて決断することとなる。しかし、事業性・市場性も充足でき、まちづくり協議会が描いたような計画が担保でき、より地域に貢献する住環境形成を可能する仕組みが見いだせないかと思う。

- ・もう一つの課題は、まちづくり協議会の審査する側の問題である。ボランティアとはいえ、夜の7時から9時過ぎまで3か月半の間に6回の協議は、仕事をしている身としてはなかなか大変であった。また、校区住民でまちづくり協議会の幹事である大学の建築学科の先生方にも専門家としてボランティアで参加してもらった。このような協議会へ専門家として参加してもらうためには、まちづくり協議会として何らかの報酬を用意する必要があると思うが、今のところ報酬を支払えるほどの資金はなく、将来的にはまちづくり協議会として継続して活動できる事業費をどのように捻出するかが課題となっている。

●住環境向上のための様々な活動

まちづくり協議会では、特定まちづくりルールの事前協議以外に、日常的に住環境に影響が



西側の公開空地には木々が多く植栽されている。2～3年後には豊かな緑の憩いの空間になると期待される

大きいと思われる案件についても関係機関と協議し、住環境向上に向けて取り組んでいる。

< 高速道路 6 号線、高架下の植栽について >

まちづくり協議会役員メンバーは建築設計、ランドスケープデザイン、造園事業者、不動産事業者、まちづくり関係とバラエティに富んでいるので、住環境の面でも多方面からの意見が出される。

今回、都市高速道のアイランドシティへの延伸に伴い、香椎浜 I C 付近から分岐する高速道路高架下空間に、福岡北九州高速道路公社（以下「公社」。）の方から植栽帯すべて「ヘデラ」にするという計画が提案されたが、メンバーの中の造園の方から「ヘデラ」という地被類は、繁茂すると道路側にはみ出し、安全上、景観上も望ましくないというアドバイスを受けた。

そこで、まちづくり協議会事務局で一部花の咲く植栽を入れた計画を提案し、公社側に受け入れていただき、整備された。来春には、美しい高架下空間の植栽帯が見られるのではないかなと思う。

< MJR マンション出入口に対する安全性確保 >

今回、MJR マンションの駐車場の出入口 1 か所が高速道路高架下側に計画された。その出入口の近くにある高速道路の橋脚は、歩道を通る自転車や歩行者の死角になり、非常に安全性に問題があることが指摘された。これに対しては当時の校区自治会長が迅速に対応し、校区からは安心安全部会長、交通安全推進協議会委員も



実現した MJR 駐車場進入口の安全対策（右側が MJR 側、左側が高速道路側、手前が歩道上の注意の標識、交差点部をカラー舗装化）

参加し、関係機関と解決に向けて 2 回の協議を行った。

安全対策として、車の進入通路と歩道の交差点部にカラー舗装化、MJR 出入口に停止線と「止まれ」の標識、カーブミラーの設置をお願いした。MJR、公社、福岡市東区道路整備課等、関係者の協力のもと、交差点部の安全性を確保することができた。

昨年 5 月の総会にて、まちづくり協議会は、校区自治協議会の下部組織から連携組織として独立した組織に改正された。また、まちづくり計画も部分的に改正が行われ、新たなスタートの年となった。

今後、香陵校区では「元雇用促進事業団の住宅」「西鉄香椎浜車庫」など、土地利用の転換が起ころうな土地もあるため、まちづくり協議会としては、事前協議第 1 号案件の反省も踏まえ、第 2 件目以降は、専門委員会を立ち上げ、事前協議に臨んでいきたいと考えている。

（やまだ たつお）

【参考資料】

- ・一般社団法人日本住宅協会 VOL70, 2021
「福岡・香椎浜地区のまちづくり～計画的に開発整備された住宅地の更新～」大竹亮
- ・香陵校区まちづくり計画
- ・香陵校区まちづくりニュース 16 号
- ・地域まちづくり計画の手引き（H25.4 発行）

「個人化」社会における「田舎暮らし」：ライフシフト、多様性、再帰性との関連

立教大学名誉教授 村上和夫

本稿は、機関誌“よかネット”第144号に掲載された拙著「高齢化・人口減少と社会のデジタル化：世代論との関係で見る人口オーナスへの視点」（以下、No. 144）に続くものである。

No. 144 では、九州各県の人口減少と少子高齢化について検討し、団塊の世代が減少すれば、従属人口指数は徐々に改善する可能性があるとしながら、しかし若い世代の人口減少は継続すると考えた。大都市への人口集中が、都市の機能の高さに依存するもの、生活の魅力という点では地方も多くを生み出している。ことにソーシャルメディアが創り出す地域生活の魅力では、例えば「#田舎暮らし」のように、多くの話題との関連を持ち、人々の関心を集める領域があることを示した。

1. 社会の個人化と多様な生活の創造

人口の減少や社会移動の都市集中は、全国的

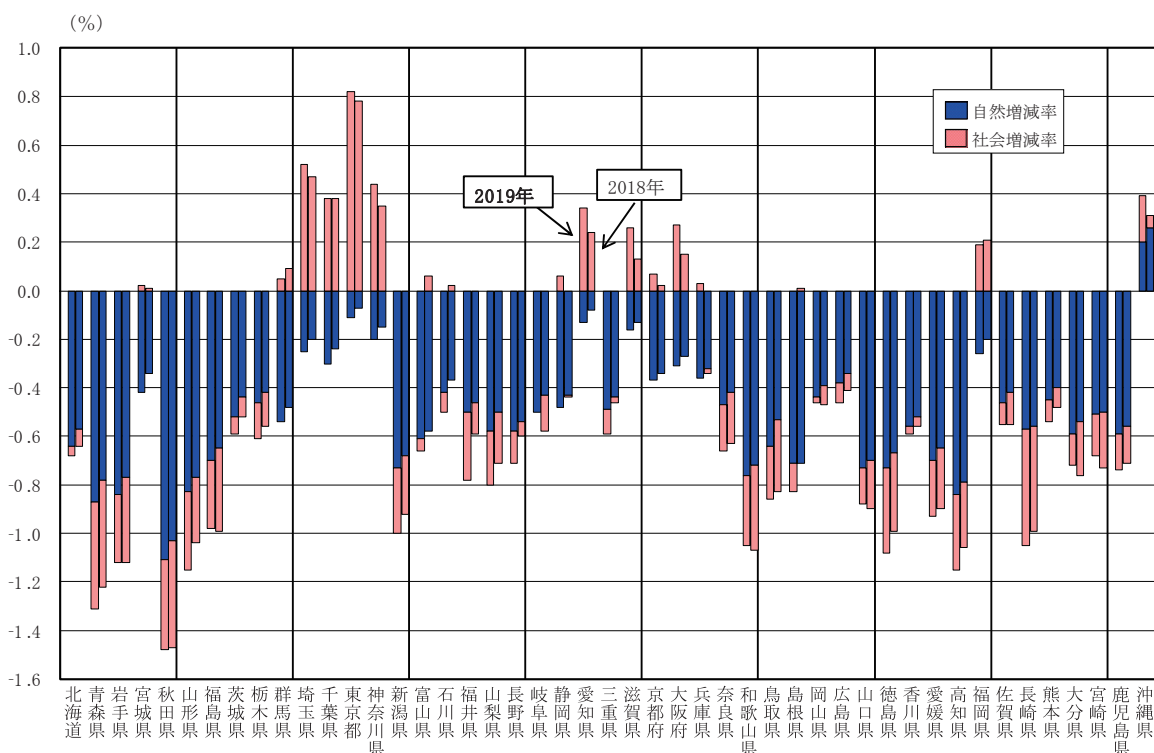
傾向であり、近年では人口が増加する地域の方が少なくなっている。そのために人口増加策は不可欠だが、大規模工場誘致などの近代の発想では解決できないことも自明となりつつある。

日本では、人口減少や少子高齢化などと共に、その真逆の状態である“施設や組織等の集中や働き過ぎ”などが同時に存在してきた。

企業等における組織運営のデジタル化やそれを進める過程で起こるDX化は、働き方や労働資源の利用に変化をもたらして来た。さらに、コロナ禍は、労働空間の配置に変化を促している。その結果、集中する事の利点が束縛に替り、働き過ぎにならない生き方（例えば、ミニマルな仕事法）が社会に広まってきつつある。これらの傾向は、以前は農村部で見られたが、最近では都市部でも観察されるようになった。

集団の決まり（規範）が個人の行動を束縛す

図1：都道府県別人口の増減要因（自然増減率及び社会増減率）



出典：総務省「人口推計」2019年（令和元年）

る傾向は伝統的な社会と考えられがちであるが、前世紀に続いた“近代”と呼ばれる時代の中でも継続していた（例えば、終身雇用や組合活動、サブカルチャーでもKY[くうきよめない]との対人批判）。それが、社会のデジタル化やコロナ禍の中で薄れ、個人が集団に頼らず自らの労働と生活を創り出さなければならない社会、つまり“社会の「個人化」”が進展した。

今世紀になると“それぞれの人が求める働き方”やそれを可能とする“能力の自己育成やその支援”が重視され、ライフステージにおける職業の最適化を考える「ライフシフト」（リンダ・グラットン他著、池村千秋訳（邦訳 2016）『LIFE SHIFT：100 年時代の人生戦略』により世界的に広まる概念）が話題となる事になった。この“最適化”は、同時に一人ひとりが選択した働き方や生活を基礎に考える指標である。それ故に、“多様性（diversity）”でもある。

2. 「多様性」の一つとしての「田舎ぐらし」

No. 144 では「# 田舎ぐらし」（以下「# 田舎ぐらし」系動画）と同時に「# 廃墟集落」や「# 廃墟探訪」（以下「# 廃墟〜」系動画）についても動画の視聴数やチャンネル登録者数などを観察した。その結果、「# 田舎ぐらし」は「# 廃墟〜」と比べチャンネル登録者数も視聴数も、そしてハッシュタグで繋がる項目も格段に多いことが窺えた。

ソーシャルメディアの世界（デジタル空間）では、都市から距離をおく地域で展開される「# 田舎ぐらし」系のコンテンツは、人口動向とは逆に、優れた価値を発揮するのである。これに対して「人は、そもそも自然の中で暮らすのが好きだから」などとのコメントを聞くことがあるが、“それならば、なぜ空き家が増えるのか”“景色の良いホテルに泊まる旅行や、あるいはキャンプをすれば良いのではないか”と言う単純な疑問がそのようなコメントには起きてしまう。

そもそも「# 田舎ぐらし」をすることそのものを視聴者は、動画の主人公の判断を支える彼らの経験や考え方、そして地域やオンラインの多様な機会を想像することは可能であろう。

そこに動画を見る価値が潜んでいる。

マクロには、①社会の「個人化」と「ライフシフト」志向があり、②都市と地方の関係では「デジタル化」や DX により創造のガイドラインやリスク管理のコンプライアンスが共有され、③ビジネス空間や技能や技術の移動が広がり、④個人のキャリア形成や生活のスタイルが新しく創られ多様性を確保していくのである。

「# 田舎ぐらし」系動画がこのような背景を持つのであれば、それは 1990 年代にルーツを持つ「# 廃墟〜」系動画と評価が異なっていることである。

3. 動画における登場人物の語り方と「多様性」の表現

この「個人化」した社会で、自分の仕事や生活を創り上げていく“私”あるいは“私と私の妻”の物語を描くには、登場人物（私、私の妻など）の描写は重要であり、改修する古民家や農作業の収穫などもこの登場人物と関係づけて説明する必要がある。

動画（画像と文章：ブログ、vlog）を用いた個人によるソーシャルメディア上の表現は、個人の作品とは言え、関係する構成要素の存在がある。それらは、①作者・撮影者（話を構成し、執筆や撮影をする人物）、②語り手（話の文脈に添い情景の説明や進行を行う人物）、③登場人物（話の中に実際に登場し人物等を演じる人物）などである。

ソーシャルメディアにおける「# 田舎ぐらし」系動画の多くは、vlog の流行もあって、“一人称動画”である。一人称動画は日記のようなものであり、一般には①・②・③は同一人物と考えられている。しかし論理的には人称に違いがあり、全てを一人称という事は難しい。

①あるいは②の多くは“私＝私”（動画を作る人も、中で語る人も第一人称の私、厳密には②では私が[私]に語らせる）であっても、③では明確に“私＝第三人称の[私]”（私が第三人称の[私]の行動などを作り出している。）である。この動画表現の構造的な理解によって「# 田舎ぐらし」動画と「# 廃墟〜」系動画との違いを理解することができるようになる。

「# 廃墟～」系動画の多くでは、シーンは一筆書きに集落や農地、廃道や駅そして廃墟ニュータウンなどの工作物を撮影する。ほとんどで、語り手 (②) が廃墟状態について解説をする事で終了する。これに対して、「# 田舎ぐらし」系動画では、語り手 (②) により地域や古民家の立地が語られる。シーンは断片的で古民家に焦点が当てられる。古民家を改修する人物 (多くは③ [私]) 並びに協力する近隣住民 (③) が登場人物として描かれる。

「# 廃墟～」系動画は記録動画の性格が強く、登場人物があるとしても語り手に近い解説者の役割を担う。他方で「# 田舎ぐらし」系動画は物語の性格が強く、「テーマ (困った事、改善したいこと) とレーマ (③ [私] と③の人物で解決する)」という内容が多くなるのである。

少し強引であるが「# 廃墟～」系動画は“人口減少の結果”“少子高齢化の結果”の解説であるのに対し、「# 田舎ぐらし」系動画は“個人が多様性を創り出す様子”“個人化”を支える地域や都市のフラットな関係の上でDIYや生活の知識や技能を交換する”物語のための語りの構造を持つと考えることが出来るのではないだろうか。

4. 登場人物を補強する「錯時法」

・話の流れと時間の流れ

「# 田舎ぐらし」系動画の多くは、移住者が古民家を再生する物語や二地域居住をしながら屋敷森や田畑を管理する物語として語られることが多い。

そのため、「# 廃墟～」系動画は景観シーンが連続しプロットが単純であるのに対し、「# 田舎ぐらし」系動画ではプロットは複雑でシーンは内容に即したトピックごとに作られる傾向がある。

こうなると、内容の持つ時間の流れはプロットの進行に従う事になり、「# 廃墟～」系動画では登場人物があっても地域や社会をテーマとする記録物語なので、トピックである景観は一筆書きのように記録動画的に流れ、そこに現在との比較で歴史上の写真や映像あるいは語りが入り込むことになる。

これに対して「# 田舎ぐらし」系動画は登場人物の生活物語であるために、登場人物の視点を活かすトピックや、生活歴そして将来の希望を表すトピックがプロットに添い登場する事になってくる。

「# 田舎ぐらし」系動画の複雑なトピックの構成は、単に文脈 (話の流れ) を視ている (読んでいる) だけでも分かるが、物語の中に流れる時間とトピック (出来事) が生じた実際の時間との差異を文脈に添って整理すると、構造的に理解することができる。詳しくは、物語分析 (narratology) の「錯時」とその修辞法分析を用いると分かりやすいが、本稿では扱わない。

・「里山のシイナ」にみられる時間の流れ

「# 田舎ぐらし」動画としてチャンネル登録者 (10.9 万人) も視聴数 (最多 1,932,894 回) も多い『里山のシイナ』 (<https://www.youtube.com/channel/UC0f044PCt-QkUtl9FS6sXQ> (2022/03/07)) を例にみよう。

このチャンネルは、30 歳代半ばの夫婦が長野県南信地域に古民家を購入し、建物の内外を片付け改修する動画である。2 年間に 60 本 (2022 年 3 月 7 日) が投稿されていて、最多視聴数は 100 万回を超えるが、通常は 10～30 万回である。ほとんどは、古民家の母家と付属する作業小屋等の解体や整理片付け、庭の樹木の剪定、土手の補修などの DIY 作業がテーマとなっている。加えて、行楽や観光の様子や古民家辺りからの景観なども収録されている。ある意味「田舎ぐらし」の典型動画とも言える。

このチャンネルの大きな特徴は、不用品回収業者等が登場する以外、ほぼ全ての作業を夫婦



図 2 : YouTube チャンネル『里山のシイナ』
(<https://www.youtube.com/watch?v=8fJFx09DkHg> 2022/03/06)

のみで行うことである。従って、登場人物も基本夫婦である。

テレビ番組で言うならばドキュメンタリーのような内容であるので、自宅や庭をDIYした経験を持つ視聴者ならば、夫婦の知識や技能の高さに気づくはずである。もちろん、夫婦の使う道具やその扱い方についてもである。

・「田舎暮らし 000、自己紹介」の役割

その背景を説明してくれるのが、「田舎暮らし 000、自己紹介」である。しかし、よく見ると（表1参照）、動画順は「000」と最初であるが、「自己紹介」は17本目（2020/10/16）と18本目（2020/10/31）の間（2020/10/28）に投稿されていることが分かる。

表1:「里山のシイナ」投稿動画（0-18, 28, 60）

投稿回	タイトル、投稿日	視聴数
田舎暮らし 000	自己紹介 2020/10/28	507,073
田舎暮らし 001	里山の古民家を購入 現状ルームツアー 2020/06/28	321,730
田舎暮らし 002	古民家の大掃除 クリーンセンター持ち込み 2020/07/04	204,212
田舎暮らし 003	草刈り ビニールハウス解体 家具作りDIY 2020/07/10	195,521
田舎暮らし 004	移住先を観光してみた 元善光寺 天竜 2020/07/17	157,944
田舎暮らし 005	梅雨 水路作り 古民家の金属処分 夕暮れの里山2020/07/24	185,768
田舎暮らし 006	レトロ布団乾燥機 竹の伐採 野焼き 2020/08/01	182,290
田舎暮らし 007	蔵カフェ 古民家の片付け 庭の手入れ 2020/08/08	204,735
田舎暮らし 008	古民家の不用品回収 農道と水路の整備 2020/08/14	192,812
田舎暮らし 009	古民家の片付け 駒ヶ岳 夏の川遊び 2020/08/21	178,261
田舎暮らし 010	古民家の片付け 草取り 庭木の剪定 2020/08/28	186,138
田舎暮らし 011	古民家の掃除 庭木の伐採 2020/9/4	272,087
田舎暮らし 012	蔵の片付け BBQトラクター引っ張り出す 2020/09/12	214,063
田舎暮らし 013	古民家トラクター置き場解体 2020/9/18	178,432
田舎暮らし 014	さよならトラクター 庭の池周り 二階片付け 2020/09/25	216,683
田舎暮らし 016	薪作り 野焼き 小屋裏の整備 竹の伐採 2020/10/09	233,112
田舎暮らし 017	古民家の廃タイヤ処分 小屋片付け 水抜き水路掘2020/10/16	205,381
田舎暮らし 018	薪作り 小屋掃除 カニ救出 ワイルド扇風機 2020/10/31	280,164
田舎暮らし 028	里山の古民家に移住 2020年総集編 2021/01/11	1,932,894
田舎暮らし 060	蔵から出てきた謎な物たちを紹介 2022/3/2	156,824

※ <https://www.youtube.com/c/里山のシイナ/videos?view=0&sort=da&flow=grid> より筆者が作成

動画の中でも「遅ればせながら…」と語られていて、投稿者の意思であることが窺える。もしかすると、投稿者はここで自己紹介の回を作る必要性を感じたのかも知れない。分析上は、その事はあまり重要ではない。この「自己紹介」回は、“000”と初回が落ち着くように見えるが、実は“018”でも良い。

「自己紹介」の回で語られているのは、夫婦の学歴や職業歴あるいは療養や転居と言った移住前の生活歴である。16本目までの動画の内容が古民家の立地、片付ける古民家の様子や手入れすべき草木や外構の紹介（なにを）、そして片付けに取り組む作業動画（どうするのか）である。プロット的には「だれが」が抜けており「自己紹介」を最初においてもおかしく無い。他方で、動画の修辞法から見ると「自己紹介」（“000”）の動画では、背景に作業の様子が映し出されており、動画の修辞法として物語を強調して、テレビドラマのプロローグのような機能をそこに持たせようとするならば、初回に置ける。しかしながら、動画と語りの関係を分析的に見るならば、実は映像の中の時間の流れ（里山のシイナの動画としての文脈上の時間と出来事との関係、動画と自己紹介（移住前の出来事の説明）の時間的な位置との間に明確な時間のずれが存在している。これは、物語論で言う「錯時」が起こっている。

・視聴者の視点と能力の問題

「自己紹介」動画を“000”から“018”の位置におくと、プロットは（[なに]古民家の片付け）は（[だれに]この人たちに）によって（[どのように]このように）と変化してくる。

つまりプロットが、話を人の側から語るか、対象の側から語るか視点を替えるのである。また、動画は現在まで60本続いているが、その途中に「自己紹介」を介在させることで、視聴者には[なに]を[どのような誰]が「継続する」かと言う「相」の問題としても理解できよう。

このように考えてくると『里山のシイナ』の動画群に「錯時」的に挿入された“動画の外の時間”の話である「自己紹介」の登場によって、視聴者はそこに示されている「ライフシフト」

の考え方を『里山のシイナ』の文脈と結びつけて理解する必然性が生まれてくる。そして、そこに登場人物（主人公）に蓄積された技能を窺うことが出来れば“018”に「自己紹介」が存在しても良い理由がはっきりとしてくる。

動画作者は「卒業後、“うよきょくせつ”いろいろあり、2020年に古民家を購入します。」(<https://satoyama-shiina.com/aboutus/2022/0306>)と動画紹介のwebページに記している。

視聴者は、この「錯時」部分をどのように聴くのだろうか。「ライフシフト」との関係にあまり関心も無く気付いていない視聴者も居るだろう。そのような人のために“000”に「自己紹介」を置くのは親切である。より正確には“000”にあっても、「ライフシフト」との関連を窺う能力を視聴者は求められる。

さらに、視聴者は“「ライフシフト」”できる能力を育成し、都市と地方をフラットに結びつける働き方の文化やルール上で活躍しようとする世代の意識”に気付き彼らの行動を付度する力を養わなければならないであろう。

これらのことは、ソーシャルメディアの上の「#田舎暮らし」系動画を人口問題と関係づける時“人口を単なる数値では無く、その特質”を理解しつつ議論すべき事の必要性を強く示す事になる。

No. 144で「田舎暮らし」のような個人の物語として語られるソーシャルメディア上の発信が、人口問題と結びつくとして述べた。そこには「個人化」「ライフシフト」「多様性」「DX化」と言った現在の社会の特徴が現れており、それらと向き合わねばならない世代の中にはしっかりとした対応力を持つ人々が存在することを知ることができる。

とは言え、そもそもその世代の人口は少ない。地域の人口減少を食い止めるほどの人数の定住を期待する事に無理があるかもしれない。ただ、従属人口指数が改善した暁には、ソーシャルメディアがオンラインのコミュニケーションを通じて、新しい考え方や価値そしてビジネスを創り出すプラットフォームとして機能するように

表2：『里山のシイナ』の観光トピック

投稿回	タイトル、投稿日	視聴数
田舎暮らし 004	移住先を観光してみた 元善光寺 天竜 2020/07/17	157,944
田舎暮らし 007	蔵カフェ 古民家の片付け 庭の手入れ 2020/08/08	204,735

※ <https://www.youtube.com/c/里山のシイナ/videos?view=0&sort=da&flow=grid> より筆者が作成

成熟させておく必要がある。SNSを通じた「#田舎暮らし」の発信は人口の少ない地域から発信されるそのような社会革新の動きの一つとも考えられる。

5. 「田舎暮らし」の中の観光

『里山のシイナ』で公開されている60本の動画をみると、いくつか観光に出掛けるトピックがある（表2参照）。

観光に出かける回数としては少ないように見えるが、その事はさておき、投稿者夫婦が「癒されるため」とか「観光に出掛ける」と理解しているトピックをあげてみた。

最初は、「田舎暮らし 004：移住先を観光してみた 元善光寺 天竜」であった。ドライブで、古刹や河川風景を鑑賞に出かけるものである。休みの日に片付けている古民家の周辺を知るために出掛けたと語る動画。もう一つは、「田舎暮らし 007：蔵カフェ 古民家の片付け 庭の手入れ」である。こちらは、動画の中の一つのトピックとして古い商店町並みの中にある蔵を改修したカフェで昼食を摂る話である。2件ともショッピングモールや遊園地などに出掛けるものではない。

「田舎暮らしに憧れていた僕が、念願の古民家を購入し、古民家の修繕やDIY、農作業・庭作業など、田舎でのライフスタイルを紹介するブログです。」(<https://satoyama-shiina.com/aboutus/2022/0306>)と言う趣旨からみると、長野市の善光寺が移転する前の古刹元善光寺の訪問、河川を眺望する自然景観鑑賞、周辺の建物景観に調和した蔵のカフェでの食事は、動画とよく調和している。

・「再帰的」な観光、「再帰的」なDIY

このような古いものや雄大な自然をうまく利用しながら持続性が感じられる製品やサービス

を提供して、観光する人が楽しむ環境を創り出す事業を、少し前から「再帰的な観光」と呼んだりする。

18世紀末から続いた「近代化」がもたらしてきた環境破壊などのリスクに気付き、近代の生産や生活を再検討しながら、社会のあり方を考えよう（再帰的な近代化）、と言う考え方が広がっている。この考え方は、そもそも社会学者のW・ベック、A・ギデンズらの論考を基礎としている。（W・ベック、A・ギデンズ、S・ラッシュ著、松尾精文他訳（訳1997）『再帰的な近代化』）

換言すると「再帰的な近代化」とは「自分のした行為により生じる不利益を考慮し、それを最小化する」事である。「再帰的な観光」とはその考え方を進めようとする観光の事である。実は、『里山のシイナ』や多くの「#田舎ぐらし」系動画にみられる古民家の再活用や環境保全などの活動も、この「再帰的な近代化」と結びつくものなのである。

古いタイプの観光の再体験、自然環境の価値を再考する観光、廃墟化した町並を再活用し楽しむ飲食店の経営などは、「再帰的な近代化」の考え方に即していると考えられる。そして、その楽しみ方を語る動画も「再帰的な観光」に属する事になる。

蔵カフェ訪問の動画では、通りの建物や蔵をぐるっと眺めるシーンの後に食事があり、「癒された～」と投稿者は感嘆している。「再帰的な施設づくり」と来訪者の再帰的な感性の結びつきを窺うことができる。

・観光や町づくりにおける廃墟性と再帰性

「再帰的な観光」は、SDGsにつながる活動の広がりとともに観光の自然との関わりの中에서도見る事ができる。そして、都市の廃墟化した商店街や、かつて住民運動と連携した町並保存による観光地などにおいても見る事ができる。

「再帰的な観光」は、社会の動きではあるが、むしろ社会の「個人化」を背景として個人が多様性を表出し地域を活性化する事が重要である。それが集団現象のようにみられるようになる事がポイントである。

廃墟化した商店街が、商店街振興事業によっ

て蘇るよりも、再帰的な近代を目指すサービスを提供する飲食店や雑貨店などがポツポツと生まれる。そして、それを楽しむ来訪者（観光者）が“レトロな街や店舗の楽しみ方を報告する”動画をSNSに投稿するようになる。そこに、再帰的な観光が生まれてくる可能性がある。（例：名古屋市の円頓寺商店街など）

このような現象の理解について重要なのは、再帰的な近代性を志向しても、それが生み出される過程が必ずしも目的合理的ではない事を理解しておく事である。セレンディピティが起れば幸運であるが、実は予期せぬ前近代的で非合理的な問題に直面する事が多いのである。その理解に“もう古い”と言うような伝統的な手法が単に技術として役に立ったり、リバーサイノベーションのような単純化による核心への接近が必要であったりする。

しかし、近代の時のように仲間の言う事を聞いていれば良い訳ではない。一人ひとりが、再帰的に行動できる姿勢を持ち行動する事が必要なのである。文科省は中高生に学習指導要領を通じて「正解のない問いに向かう力を養う必要性」を訴えるが、それは社会人にも必要な課題かもしれない。（むらかみ かずお）

表 紙 解 説

福岡市における2010年(H22)から2020年(R2)の10年間の人口増減率は10.1%で、増加率は全国の県庁所在地・政令指定都市の中でトップとなっています（第2位はさいたま市の8.3%、東京都特別区は8.8%）。日本全体で見ると10年間で-1.5%の人口減少、多くの市区町村でも人口減少が進む中で福岡市は稀有な状況となっています。

そんな福岡市においても、すべての地域で様に人口が増加しているのではなく、地域によって差が生じています。次ページに掲載している表は小地域の人口増減を区別に整理したものになります。これを見ると市全体では256の地域で人口増加となっており、割合で見ると63.8%となっています。区別では、博多区で

83.5%、中央区で78.8%と天神・博多の都心部を含む区で人口増加の地域が多い一方で、城南区や早良区では6割未満となっています。なお、表中の比較不可は統計の秘匿処理や小地域界の変更により経年比較ができない地域であり、西区に多く見られます。これは九州大学の移転に伴う区画整理等により、小地域の区域変更が生じていることが主な要因で、下図の「①九大学研都市駅周辺地区」で47.4%の人口増加、「②の伊都キャンパス周辺地区」で166.5%の人口増加となっています。

続いて、小地域ごとの人口増減ですが、今回の分析では、可住地面積（総面積から林野面積と主要湖沼面積を差し引いた面積）1km²当たりの人口増減を比較しています。

下図の緑枠と黄枠はそれぞれ天神地区（西鉄福岡駅）と博多地区（JR博多駅）を起点に公共交通を利用して45分以内に到達可能なエリアを示したものです（内閣府「RESAS 近距離移動時間分析」を使用）。

所要時間はあくまでも機械的に算出したものなので実際の交通事情とは異なる場合もあります。

右：区別人口増減状況別の小地域数

（出典：国勢調査）

下：人口増減と交通アクセスの関係図

（出典：国勢調査、RESAS「近距離移動時間分析」）

すが、概ね1,000人/km²以上増加している地域と合致しています。交通利便性が高く土地の高度利用も一定程度進んでいることが主な要因と考えられ、都心への集中が進んでいることが推察されます。

一方で、人口減少は駅との近接性に関わらず中層以上の住棟が主となる大型公営団地が立地する地域が上位を占めています。

次いで減少が大きいのは郊外の戸建団地となっており、こちらも世帯の入れ替わりが少なく高齢化による世帯の縮小が影響しているものと推察されます。（櫻井 恵介）

地域		人口増加	人口減少	比較不可	総計
福岡市東区	実数	42	18	7	67
	割合	62.7%	26.9%	10.4%	100.0%
福岡市博多区	実数	66	9	4	79
	割合	83.5%	11.4%	5.1%	100.0%
福岡市中央区	実数	41	10	1	52
	割合	78.8%	19.2%	1.9%	100.0%
福岡市南区	実数	37	13	0	50
	割合	74.0%	26.0%	0.0%	100.0%
福岡市西区	実数	25	28	20	73
	割合	34.2%	38.4%	27.4%	100.0%
福岡市城南区	実数	17	10	2	29
	割合	58.6%	34.5%	6.9%	100.0%
福岡市早良区	実数	28	20	3	51
	割合	54.9%	39.2%	5.9%	100.0%
総計	実数	256	108	37	401
	割合	63.8%	26.9%	9.2%	100.0%

交通アクセス

天神から45分圏内

博多から45分圏内

区境

鉄道

九州旅客鉄道（JR）

西日本鉄道（西鉄）

福岡市営地下鉄

可住地における人口密度の増減

3,000人/km²以上減少

2,000～3,000人/km²減少

1,000～2,000人/km²減少

1,000人/km²減少～1,000人/km²増加

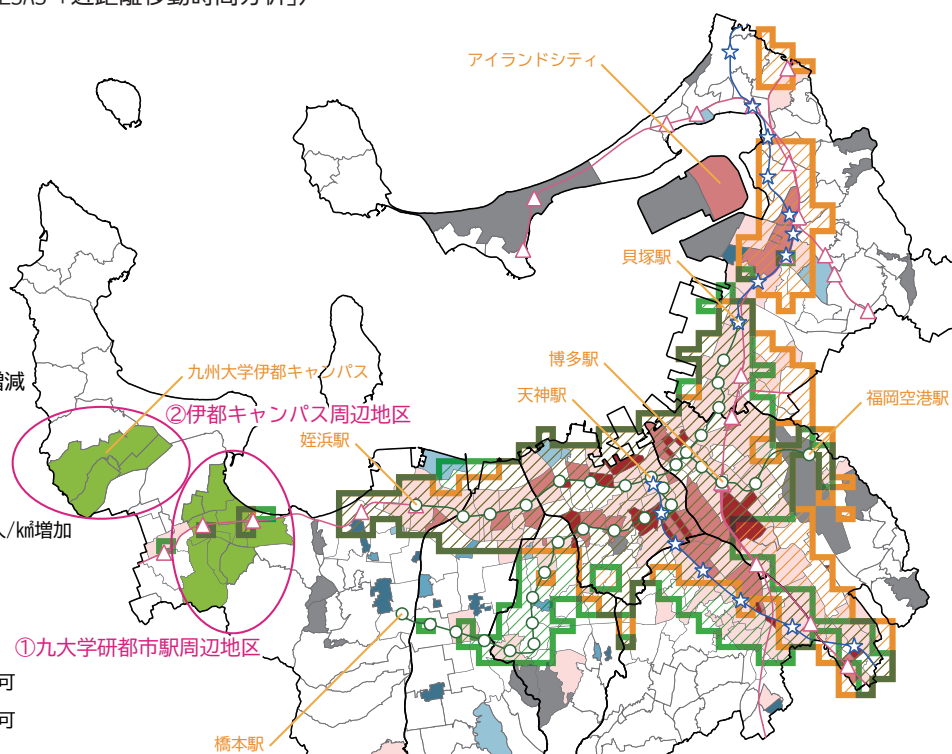
1,000～3,000人/km²増加

3,000～5,000人/km²増加

5,000人/km²以上増加

区域変更等により比較不可

秘匿地域等により比較不可



まちの公園を活用して、
地域に開くことを志向する保育園の
取り組みと、使用している制度に
ついでの紹介

福吉 聡子

私たちが暮らすまちには道路、公園、広場、上下水道等のインフラ設備、公共施設など多様な都市施設が存在しますが、その一つである公園を積極的に活用し、地域に開かれた保育園を志向して活動をする保育園の取り組みと、その保育園が利用している福岡市の制度をご紹介します。

公園のような公共スペースは、利用ルールが決まっているがために、ある程度定型化された利用法しかできないものと思ひ込んでいましたが、新しい可能性を少し感じさせてもらったことを共有したいと思います。

●公園に隣接する保育園

ご紹介するのは福岡市中央区薬院伊福町の「いふくまち保育園」と、すぐそばにある「ごしょがたに保育園」（以下、（い）保育園、（ご）保育園）です。薬院伊福町は、福岡市中心部の西鉄天神駅から約 1.5km、福岡市地下鉄の薬院大通駅から約 500m で、周りにはビルが立ち並んでいます。（い）保育園は、面積約 500 m² の福岡市古小鳥（ふるこがらす）公園に隣接するテナントビルの 1 階にある、企業主導型保育園として開設された定員 19 名の保育園で、開設後 5 年ほど経過したところです。まず、（い）保育園が開設され、古小鳥公園での活動を通じ知り



古小鳥公園に隣接するいふくまち保育園

合ったご近所の大家さんに誘われ、数年後、徒歩 1 分ほど離れたビルの 1 階に（ご）保育園（定員 30 名）が開設されました。

運営するのは、どちらも酒井咲帆さん。彼女は、「子どもとともに過ごすことは、大人にも大きな学びをもたらし、子どものいる風景は多様な人どうしをつなぐ力になる」と考え続けてきました。保育園運営の基本を「保育園は暮らしの場『生きる力』を磨く」、「自然や芸術や食事など、本物に出会う」、「まちと一緒に育ち合う」の 3 つとし、考えに賛同する約 30 名の保育士、保育支援員、看護師、調理員などとともに、両保育園の運営にあたっています。

●拠点とする公園の積極的利用と地域交流

両保育園に通う子どもたちは、古小鳥公園を様々に活用しています。毎日、公園で外遊びの時間を過ごし、公園の草取りや花の植え替えを行います。その他、コロナ禍が続くなかで計画的に実施できなかったこともありましたが、豆まきなどの年中行事や夏のプール遊び、地域の高齢者が定期的に行うラジオ体操への参加、公園で行われたマルシェへの出店などです。

「みんなが居心地よく過ごせる公園であるための管理の一端を楽しみながら行い、その公園を利用させてもらい、まちとともに成長する保育園でありたい。公園を利用できることで子どもたちの活動に広がり生まれ、その活動を通じて子どもの豊かさを地域にも提供し、つながりを育んでいきたい。」と酒井さんは語ります。

「保育園にも一歩足を踏み入れてもらいたい」とはいうものの、街なかの保育園に部外者が突



いふくまち保育園の様子（内部）



古小烏公園
を活用する
様子
(左から、
プール、
豆まき、
マルシェ)

然訪問することはあまり現実的ではありません。独自の園庭を持たないが故の活動でもあると思いますが、日常的に公園を拠点に活動することで、通りがかった人に声をかけられたり、地域の人たちとともに活動したりするなど、保育園の中と外を緩やかにつなぐことが可能になっています。

●公園から少しずつ広がるつながり

公園での活動を通じ、少しずつつながりの輪が広がっています。先述しましたが、公園でのラジオ体操などを通じ知り合った大家さんに声をかけられ、(い) 保育園から 50 m ほど離れた場所にあるテナントビル 1 階の店舗が退居した後に、2 件目の (ご) 保育園が開設されました。

また、昼間利用されていなかった近所の剣道場の空き時間を雨天遊び場として利用しています。その他、公園の管理活動を知って花の苗を寄付して下さる方もいるそうです。

これらは、単純に地域が善意でサポートしてくれるというだけではなく、空きテナントを利用しテナント料を支払い、施設の空き時間を利用することで利用料を支払い、また廃棄されるかもしれない花の苗を引き取って有効に活用したということでもあり、地域の小さな循環を生み出しています。

●利用の気遣い

拠点として古小烏公園を利用している両保育園ですが、学校の長期休みなど地域の子どもの利用が予想されるときには、周辺の複数の公園を利用しています。

また、最も気を配っているのは、「みんなの古小烏公園」であるので、独占しないのは当然ですが、後述するように、公園が心地よく過ごせる場所であるように管理したり、公園での活動について情報を発信したりすることです。

●公園の維持管理を担う愛護会

さて、公園を積極的に活用している両保育園ですが、酒井さんは、福岡市の「公園愛護会」の制度により「古小烏公園 愛護会」を設立し、草取り、花壇の手入れ、清掃などを子どもたち、保護者、職員、地域の人とともにを行っています。

公園愛護会は、都市公園の清掃・除草等の日常的な管理を自発的に行うボランティア団体として、福岡市が結成を呼びかけているもので、公園周辺の町内会、自治会、老人会、子ども会等を中心に結成されています。1 公園 1 愛護会が原則で、中央区内には公園が大小取り混ぜておよそ 130 ありますが、現在のところ、愛護会はそのうちの約 61% で結成されているそうです。基本的な活動は次の通りです。

公園愛護会 基本活動

- ・月 1 回以上の公園の除草・清掃
- ・月 1 回以上の遊具等の調査点検、点検結果の報告
- ・公園の利用者に対する、利用上の注意・指導

この活動には、面積に応じ報奨金が交付されています。

愛護会活動面積 (㎡)	年額 (円)
1,000 未満	28,000
1,000 以上～ 2,000 未満	30,000
2,000 以上～ 3,000 未満	32,000
3,000 以上～ 4,000 未満	34,000
4,000 以上～ 6,000 未満	36,000
6,000 以上～ 8,000 未満	38,000
8,000 以上～ 10,000 未満	40,000
10,000 以上	42,000

また基本活動に加え次のような選択活動の制度もあります。上記の報奨金に、活動に応じ加



古小烏公園の花壇の様子

算されることになっています。

公園愛護会 選択活動

- ・公園の樹木管理（中低木の刈込）
- ・公園の除草管理（機械除草等）
- ・公園内の便所清掃

●公園利用のルール

福岡市の分類によれば、古小烏公園は「0.1ヘクタール未満の、主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園」で都市公園のうちの「幼児公園」と分類されています。

公園の利用には福岡市公園条例等のルールが定められており、事前の許可申請が必要な行為や使用料が発生する行為もあります。利用にあたっては両保育園とも例外ではなく、行為許可申請書等の提出が必要です。

日常的に利用しているということで両保育園は当然ながら頻繁にこの行為許可申請書を提出しています。今のところ提出法は紙ベースに限定されているとのことなので、私見ながらなるべく早く電子化されるといいと願っています。

●「まちと一緒に育ち合う」

開設されてから数年目の若い保育園が、好意的に地域に迎え入れられているというものの、多少のクレームはゼロではありません。「まちと一緒に育ち合う」という方針通り、対話とともにその都度少しずつ成長していく心構えです。

●公園利用の方法の新しい展開を期待したい

酒井さんが利用している制度は、公園愛護会と行為許可申請の2つあります。特殊なものはありませんし、公園で遊ぶ、花壇の手入れを



みんなで公園の清掃

する等の利用・管理も珍しいものではありませんが、利用する公園がごく身近にあって延時間が大変長いこと、管理のプロセスや派生する地域との対話を楽しんでいることで、新たな利用者像となりつつある気がします。現在のところ、この取組みが一般的な姿とまでは言えないと思いますが、私の思い込みを軽く揺さぶり続け、新たな利用者像がさらに生まれることを期待しています。（福吉 聡子）

近 況

総 八女市のアンテナショップ「八女本舗」に焼酎「環」を出品

平成22年度から都市住民と地元の方たちと一緒に八女市上陽町の遊休農地を活用し、毎年、5月末～6月初旬に焼酎用の芋（コガネセンガン）苗を植え11月に収穫しています。「環」とは、その収穫した芋で、隣の黒木町にある後藤酒造場で製造してもらっている焼酎の名前です。

「環」は、売り上げの一部を基金として積み立て、毎年、八女市内でまちづくり活動や地域を元気にする活動などに貢献している団体に助成しています。このプロジェクトは、都市住民と地元有志で組織した「八女市上陽町芋焼酎プロジェクト実行委員会」で運営しています。

令和元年には上陽町にある小中一貫校「上陽北浜（ほくぜい）学園」のゴルフ部、令和2年には八女市で活躍している太鼓集団「童衆（わらべしゅう）」に助成しました。

太鼓集団「童衆」の方たちは、今では畑の草

取り、収穫に手伝いに来ていただき、大いに助かっています。

「環」は、製造ロットも少なく、基金を積み立てている分、販売価格は割高になってしまうこと、また積極的な営業展開ができていないことなどの理由で、なかなか売上が伸びていません。売上アップが課題となっています。

今回、福岡市にある八女市のアンテナショップ「八女本舗」に「環」を出品することになりました。待望の「環」、福岡市進出です。

「環」は、藤の花から抽出した酵母を使用し、麴は黄麴を使用しているため、少し甘めの焼酎で、ロックがおすすめです。

焼酎好きな方は、是非「環」を購入し、八女地域に貢献していただければと思っています。

飲むほどに酔うほどに
地域が豊かになる焼酎
「環」は、八女本舗の
左奥の棚にあります



「八女本舗」は福岡市渡辺通りの商業施設「LOFT」の向かい側、バス停「渡辺通り南」のすぐ目の前にありますので、この近くを通りかかったときは、お店を覗いてみてください。

(山田 龍雄)

■BOOKS



「オードリー・
タン デジタル
とAIの未来
を語る」

オードリー・タン著

オードリー・タンさん（以下、オードリー氏）は、今となっては、多くの人をご存知だろう。全世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス対策において、台湾はその初期段階において封じ込めに成功し、現在までも感染者数を低く抑えているが、その立役者として紹介されている。例えば、マスクをいち早く届けるために生まれたマスクマップは、オードリー氏とスラック（ビジネスチャットツール）上のシビックハッカー（政府等がインターネットなどに公開したデータを活用し、市民が利用しやすいようなアプリやサービスを開発する人）により生まれたものだ。

私が本書を手にとったのは、「デジタル化」

や「AI」とは何なのか、それらによって何がどう変化するのか、変化にどのように向き合えばよいかなどモヤモヤを抱えていた時に、大好きな台湾で世界的に注目されていて年齢もほぼ変わらない人が、モヤモヤを解くヒントをくれそうなタイトルの本を出していたからである。

この本は、台湾におけるデジタル化において何を大切にしているのか、その考えや進め方などを知ることが出来る。そして、本書を読み進めると、それは何も台湾に限ったことではなく、あらゆる国・地域で共通して大切にすべきことであるという想いを持つようになる。いくつか、私が大切だと思った文章を紹介したい。

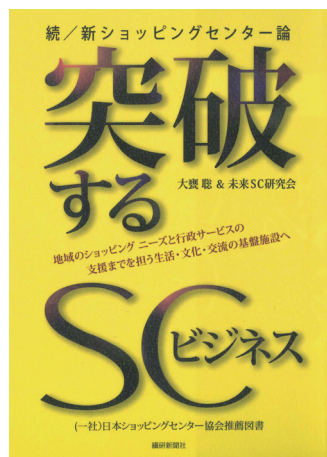
- ・デジタルはあくまでも道具にすぎず、その成否を握るかぎは活用する側にあることは言うまでもない…デジタルは国境や権威というものを越えて、様々な人々の意見を広く集めることに優れている。決して恐るべきものではない（はじめに）
- ・創造力の定義というものは、状況に応じて常に変化する…「この仕事をすれば、社会や環境、経済にいい結果をもたらす。ある種の公共利益をもたらす」といったことを自分の価値の源にすべき（第一章 AI が開く新しい社会）
- ・「みんなのことを、みんなで助け合う」こと

が大事（第三章デジタル民主主義）

- ・「イノベーションとは、より弱い存在の人たちに優先して提供されるべき」ものであり、それこそが誰も置き去りにしない「インクルージョン」。私たちの社会には、多種多様な人たちが生きていることを忘れてはいけない（第四章ソーシャル・イノベーション）
- ・民主主義社会で仕事をする上では、見る人に親近感を持ってもらうこと。見る人に嫌悪感や困惑を与えるようなものに対して、誰も参加して討論しようとは思わない。…民主主義を健全に発展させるためには、「いかにして人が寄り添うものにしていくか」が大きなポイント（第五章プログラミング思考）

改めて本書を読み返すと、「誰一人取り残さない社会をデジタルやAIを活用してつくっていく」という考えが根底にあると感じる。

デジタルやAIがもたらす変化、それを踏まえた社会のありようなどに関心のある方、そしてオードリ氏に関心のある方にお勧めします。（山崎 裕行）



続 / 新ショッピングセンター論

「突破するSCビジネス」

著者
大隈聡&未来SC研究会

日本にショッピングセンター（以下SC）が誕生して50年を迎え、その歴史を振り返り、これからの50年のSCのあり方、新ビジネスモデルを考えようという話がきっかけで出された本である。著者の一人である未来SC研究会の岡本さんからは、ソーシャライジングセンター※の展開については何度も話を聞いていた。本書は、SCの歴史から始まり、社会変化とともに抱えてきた課題、そして未来型SCへの期待と可能性、最後にソーシャライジングセンターの提

案が述べられている。地方再生の一つの手法としてSCから官民連携型のソーシャライジングセンター・S o Cへの展開により、地方が抱える文化面、健康面、サードプレイスなど多様な地域貢献ができる仕組みが提案されている。

※未来SC研究会によれば「単なるショッピングセンターではなく自己実現と社交活動を促す拠点」とされている。（山辺 眞一）

第1部 SC半世紀の総括

第1章「玉川高島屋ショッピングセンター」の軌跡

第2章「日本ショッピングセンター協会」の設立とあゆみ

第3章「日本式SC経営」の新たな発展型を求めて

第2部 転換期のSC

第1章 生き残りを賭けた時代に

第2章 SC内部の課題

第3章 外部構造からの影響と当面のあり方

第3部 サステナブルな未来型SCを目指して

第1章 SCモデルの多様化

第3章 官民連携を加速するSCの可能性

第4章 突破するSCビジネスモデル「S o C」

1 ソーシャライジングセンターの哲学的背景

2 S o Cのマネジメントシステム

3 まちサポート会員システム

4 地域知財資料館

5 ソーシャライジング・テナントミックス

6 S o Cの事業成立性

よかネット No. 146 2022. 4

（編集・発行）

（株）よかネット

〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階

TEL 092-283-2121 FAX 092-283-2128

<http://www.yokanet.com>

[mail:info@yokanet.com](mailto:info@yokanet.com)

（ネットワーク会社）

（株）地域計画建築研究所

本社 京都事務所 TEL 075-221-5132

大阪事務所 TEL 06-6205-3600

東京事務所 TEL 03-5244-5132

名古屋事務所 TEL 052-462-1030